

⑧鞍掛山麓千枚田保存会

～ 湧水・天日干し、生きものと共生した体に優しい米作りの実践 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)◆企業



四谷の千枚田



収穫感謝祭 餅つき



新東名定期バス(ラッピングバス)

活動のきっかけ

かつては、1296枚の棚田が耕作されていたが、耕作放棄地が拡大、平成3年には373枚まで減少したため、「地域の宝」である棚田の存続を危惧する地元住民らが平成9年に鞍掛山麓千枚田保存会を設立。

活動の概要

- ◇自然豊かな景観と生物多様性に富んだ「四谷の千枚田」の自然・景観の保全活動を実施。
- ◇棚田での稲作を通じた農業体験学習や自然観察会等を地域が一体となって実施。
- ◇お田植えのタベ、収穫感謝祭、稲作体験等各種イベントの開催で都市と農村の交流を実施。
- ◇企業の社員研修やボランティアを受け入れ、生物多様性調査の実施やビオトープを設置。

活動の成果

- ◇棚田の保全活動やPR活動により来訪者が増え、農作業道路やふれあい広場などの周辺整備が進み、癒やしを求める都市部からの来訪者が平成27年には年間25,000人に増加。
- ◇「四谷の千枚田」を新たな地域の中核として位置づけ、地域住民が各種活動を協働で実施し、地域を活性化。
- ◇美しい景観を持つ「四谷の千枚田」が多言語観光パンフレット等の各種資料に採用され、マスコミ等にも評価されるなど、知名度が向上。全国各地から視察や講師依頼があり活動を紹介している。
- ◇生産性に乏しい当地では、災害・飢饉に備え備蓄していた、備蓄米(古米)を地元製菓会社で加工し、地域特産品「千枚田五平餅」として宅配便や道の駅で販売。

問合せ先

〒441-1942 愛知県新城市四谷59

TEL:0536-35-0747 FAX:0536-35-0747

⑨愛知用水土地改良区

～ 受益地域と水源地域の交流イベント「愛知用水と水源の森」～

◆子ども(教育・体験)



職員が講師を務める愛知用水青空教室



だんごの棒パン焼き



愛知用水・水源涵養に関するパネル展

活動のきっかけ

「愛知用水」は、昭和36年以来、半世紀の永きに亘り広大な農地を潤してきた。

用水を管理している愛知用土地改良区を中心に、先人たちが築き上げた水の恩恵に感謝を込めて、水源地域と受益地域の交流を深めてきた。

用水の重要性や水源地への感謝を再認識し、「水の絆」を後世へつなげていくため、JAあぐりタウン「げんきの郷」を訪れる来場者に対して交流イベントを平成21年から開催。

活動の概要

◇「げんきの郷」に愛知用水や水源涵養林の重要性を展示・交流するため10のブースを設置。

◇一般来場者に対して、愛知用水の歴史を紙芝居を用いて説明する青空教室、水源地の木材を活用した木工教室、水源林のどんぐりを使った棒パン焼き、ため池や水路に棲む生き物の観察などの体験教室及び、水源地域や受益地域の特産品の販売及び観光PRなどを実施。

活動の成果

◇毎年400人程度が参加しており、平成28年度のアンケートでは「水源地の役割や農業用水への役割について理解できた。」との回答が約90%と高く、「愛知用水」の重要性について広く一般への理解が広まりつつある。

問合せ先

〒474-0025 愛知県大府市中央町三丁目6番地の1(総務部総務課)

TEL:0562-44-4800 FAX:0562-44-4801

⑩ JA 青年部

～ 朝採り新鮮大府野菜を消費者へお届け ～

◆「食」の提供・活用 ◆地産地消 ◆都市農業



地産地消マルシェ@大府駅前の様子



地産地消マルシェ@大府駅前



地産地消マルシェ@大府駅前

活動のきっかけ

JA 青年部員が、自ら育てた安心・安全な農産物を直接対面販売したいという希望を市が受けて、大府駅前にマルシェを開催。

活動の概要

◇毎月第4日曜日の9:00～12:00に大府駅前にて地産地消@マルシェを開催。

◇平成28年7月25日～地産地消マルシェ@大府駅前を開催。

活動の成果

◇1回当たり約6～7万円程度の売上があり、JA 青年部の活性化を図ることができている。

◇商工会議所が同日に大府駅前で物品販売を行っており、相乗効果で大府駅前の活気につながっている。

問合せ先

〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目70番地(大府市農政課)

TEL:0562-45-6225

⑪ベジエール渥美

～ 渥美半島田原市の野菜・果物の応援隊 ～

◆子ども(教育・体験) ◆地産地消 ◆女性の活躍



商業施設での田原市産農産物PR



保育園での食育活動



テレビ取材で野菜をPR

活動のきっかけ

農業産出額日本一の「渥美半島」田原市において、市の呼びかけで様々な職業の20代～70代のジュニア野菜ソムリエ講座修了生48名が中心となり、田原市産農畜産物の魅力のPRや農業を盛り上げるため平成26年に組織を設立。

活動の概要

- ◇野菜ソムリエの資格を持つ会員48名(うち女性38名)で組織され、企画部会、食育部会、レシピ部会を構成し、野菜ソムリエとしての知識を活用して田原市産の野菜・果物をPR。
- ◇市内外のイベントに参加して地元農畜産物のPRや、保育園児や小中学生の年齢に合わせた分かりやすい内容で食育活動を行い、子どもの野菜嫌いの克服や消費拡大に取り組む。
- ◇田原市の農畜産物を使用したレシピの開発、広報誌等でレシピ紹介、テレビ取材やイベント等を積極的に活用することで、家庭での田原市産農畜産物の活用を提案。

活動の成果

- ◇食育講座の参加者が年間約1,040人(H28)となり、講師依頼が年々増加するとともに、アンケートでは「子どもが野菜を進んで食べるようになった。」という回答が多数。
- ◇タウン誌での巻頭特集記事やテレビ取材で団体としての知名度が上がり、田原市のPRにも貢献。
- ◇タウン誌と広報誌の連載で田原市産農畜産物を使用したレシピを紹介。市と協力して地元の旬の野菜・果物を使ったレシピ本を作成するなど「地産地消」の推進に貢献。

問合せ先

〒441-3421 愛知県田原市田原町南番場30-1(田原市産業振興部農政課内)
TEL:0531-23-3517 FAX:0531-22-3817

⑫鍋田土地改良区

～ 海拔0m地帯の農業農村を守る ～

◆子ども(教育・体験) ◆都市農業



排水機場現地学習会で小学生に説明



排水機場内部でお絵かき大会



土地改良区クイズの当選者表彰

活動のきっかけ

鍋田土地改良区管内は、すべて海拔ゼロメートル以下の自然排水ができない地域で、本土地改良区がその排水管理を担っているが、その重要性を広く知ってもらうための活動として、平成23年から地元の小学4年生を対象に排水機場の現地学習会を開始。

活動の概要

◇毎年、海拔ゼロメートル以下という地域の特性と排水施設の重要性を理解してもらうことを目的に、管内にある2つの小学校で、4年生を対象に排水機場現地学習会を実施。

◇当地域で生産される米は、愛知県内で最も早い出荷のため、8月中旬の初出荷式は度々ニュース等で報道されており、そのイベント会場で本土地改良区のブースを設け、土地改良関係のパネル展示や土地改良区クイズの実施等により土地改良施設の重要性をPR。

活動の成果

◇小学4年生を対象とした現地学習会では、毎年50人前後の参加があり、海拔ゼロメートル以下の当地域における排水の重要性や土地改良区の役割を広く知ってもらい、地域での土地改良施設への意識向上につながっている。

◇異常気象による局地的集中豪雨の頻発等に対する排水管理等、本土地改良区の管理する農業用施設の重要性を地域住民に理解してもらうことにもつながっている。

問合せ先

〒498-0048 愛知県弥富市稲吉一丁目31番地

TEL:0567-68-8204 FAX:0567-68-4301

⑬美浜町都市農村交流協議会

～ 交通網がとても充実した便利な田舎 ～

◆自然・景観 ◆教育 ◆農林漁業体験



イチゴ狩り体験の様子



地引網体験の様子



my干物作り体験の様子

活動のきっかけ

後継者不足、農産物価格の低迷など厳しい状況の中、平成12年10月に「魅力発見あいちの農村」事業を実施したことをきっかけに、美しい自然に恵まれた地域資源を有効活用し、都市と農村の交流を図り、地域の活性化を目指して平成13年4月美浜町都市農村交流協議会を組織。

活動の概要

◇イチゴ狩りとイチゴジャム作り体験等のグリーン・ツーリズム。地引網体験、イルカ記念撮影、貝殻フォトフレーム作り、干物作り体験等のブルー・ツーリズムを実施。

◇美浜町での農業・漁業体験プログラムの開発やブラッシュアップを図るとともに、町内の観光資源や特産品を組み合わせた日帰り体験ツアーの開発や実施。

◇平成28年度には、漫画家鳥山明先生が監修した「ぐるぐるOISHIIマスタープロジェクト」の冊子を作成し、町内の小学生全員に配布する他、町内の農業・漁業体験が可能な施設で無料配布。

活動の成果

◇平成28年には体験ツアーに約200名が参加し、参加者からは「楽しかった。また美浜町にきたい。」等の意見をいただいており、体験ツアーを通じて農林漁業への理解や美浜町の良さが伝わり、体験以外にも来訪する機会の創出につながった。

◇作成した漫画冊子は、子供でも親しみやすく、大人にも興味を持ってもらえるような内容となった。

◇パッケージ化されたグリーン(ブルー)・ツーリズムの開発で、町内地域資源・施設を効果的に活用でき充実した内容のグリーン(ブルー)・ツーリズムの実施が可能となった。

問合せ先

〒470-2492 愛知県知多郡美浜町大字河和字北田面106番地(美浜町産業振興課)

TEL:0569-82-1111 FAX:0569-82-5423

⑭奥三河つぐ高原グリーンツーリズム推進協議会

～ 奥三河高原ジビエのブランド化を目指して ～

◆ジビエ ◆「食」の提供・活用



奥三河つぐ高原マルシェ会場



ジビエの森でのイノシシ肉解体



「食育Dining in つぐ高原」

活動のきっかけ

人口減少と高齢化に伴い地域活力が低下したため、地域の豊かな自然や食を観光や教育等に活用し、都市と農村との交流促進、地域活性化と地域コミュニティ再生を目的として、平成25年に協議会を設立。

活動の概要

- ◇地域の食と文化を紹介するイベント「奥三河つぐ高原マルシェ」を平成25年10月から毎年開催。
- ◇農作物に被害をもたらすため捕獲される猪や鹿を地域資源としてとらえ、ジビエの活用と安定供給に向けた施設「奥三河高原ジビエの森」を整備し、道の駅「もつくる新城」のレストランや地元飲食店、宿泊施設に供給。
- ◇奥三河高原ジビエのブランド化に向けて新たな販路開拓や地域特産品としての加工品を開発。
- ◇地元の小学生親子を対象に、地元野菜やジビエを使った料理教室「食育Dining in つぐ高原」を開催。

活動の成果

- ◇「奥三河つぐ高原マルシェ」は、平成28年には奥三河地域から21店の出店、約1,500人の来場者があり、地域のイベントとして定着、都市と農村の交流を促進に大きく寄与。
- ◇ジビエ処理加工施設「奥三河高原ジビエの森」の整備で、ジビエ販売という新しい産業を創出。
- ◇「奥三河つぐ高原マルシェ」や「奥三河高原ジビエの森」がマスコミに取り上げられ、地域PRに貢献。

問合せ先

〒441-2601 愛知県北設楽郡設楽町津具字下川原6番地1(津具商工会)
TEL:0536-83-2114 FAX:0536-83-2335